

# 農学部における全学教育と専攻教育の連節

九州大学名誉教授\* 村瀬 安英

キーワード：農学部，全学教育，専攻教育，連節

## I 農学部の教育目的と特徴

農学の使命は、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献することであり、したがって農学部（以下、本学部）は、「農学の使命を達成するために、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊かな課題探求能力とバランス感覚を備えた多様な人材を育成する」を教育の目的としている。この目的を達成するため、本学部は九州大学教育憲章の趣旨に則り、「農学に対する総合的な知識、国際的に通用する専門性を備えた教養人を養成する」という中期目標を設定し、教育の向上に努めている

本学部の教育課程は、広範な学問分野にまたがる農学に対して、幅広い教養と専門知識を備えた人材を育成する方針の下、生物資源環境学科という1学科制の教育課程を編成している。すなわち、農学部に一括入学した学生は、1年半の全学教育科目及び基礎専攻教育科目を通して農学の概要を学びながら生物資源生産科学、応用生物科学、地球森林科学、動物生産科学の4コース（学科目）を選択し、2年後期からコース・教育分野に配属される。進級後は3年後期までに、主に必修の講義科目・実験実習科目等を修得し、4年前期（コースによっては3年前期又は3年後期）に志望する分野に別れて卒業論文を作成することになる。

2年後期からのコース・教育分野への進級において、コースの選択は基本的に学生の志望によるが、志望者が定員以上になった場合は、規定単位の成績上位者から順に充当され、下位者は第2志望以下のコースに進級することになる。このような本学部の専門コース配属の制度は、入学後の学生に選択の自由度を大きく持たせるものといえる。学生にとっては、真に志望するコースに進級するには不断の勉学が要求される。このように学部一括入学方式の本学部では、全学教育と専攻教育の連節は極めて重要である。

なお、入学試験では、「農学に関する強い関心を持ち、この分野における勉学・研究に熱意と適性及び能力を有する多様な人材の確保に努める」というアドミッション・ポリシーのもと、個別学力検査・前期日程、同・後期日程並びにアドミッション・オフィス方式による選抜（AO選抜）の3種類の入学者選抜試験を実施して、様々な能力を有する入学者の獲得に努めている。

---

\* 原稿提出時（2009年1月）、九州大学大学院農学研究院、本稿のデータなどは原稿提出時のものである。

## II 教育課程の編成

農学部規則では、本学部における教育課程は全学教育科目及び専攻教育科目により編成され、卒業要件は農学部にて4年以上在学し、次の各号に定めるところにより、140単位以上修得することとされている。(1) 全学教育科目 50単位以上、(2) 総合選択履修方式による全学教育科目及び専攻教育科目 4単位以上、(3) 専攻教育科目 86単位以上。

本学部における全学教育科目から専攻教育科目に至る科目構成を資料-1に示す。前述のように農学部に一括入学し、1年半の基礎・専門教育の後、4コース(11分野)に配属し、さらに高度な専門教育を行う本学部の教育課程の特徴を踏まえて、教養教育科目と基礎科目から構成される「全学教育科目」には、要諦の部分を学ぶ必修科目の他に、幅広い視野を確保するための選択科目を多数配置している。特に、高校での限られた科目履修を補填するため、文系及び理系コア科目に最低修得単位数を設定し幅広い学習を促している。一方、「専攻教育科目」には上記全学教育と並行して始まり、特に低年次では、高校で履修が不足しがちな内容を補う「生物学・物理学基礎概要」、農学関連の生物学・化学・社会科学の土台を築く「共通基礎科目」、および多様なコースの専攻内容を概観する「コース概要科目」を配置し、各コースを専攻するまでの教育に連続性・一貫性を持たせているのが特長である。また、コース・分野配属後は、各専門分野の知識を深めるための授業科目を配置している。

## III 教育内容、教育方法、教育実施体制、学生支援等の改善への取り組み

本学部は、教育内容の充実、教育方法の改善、教育実施体制の整備、学生支援の向上を目的に、コース決定等における選択システムの改善、専攻教育における体系的カリキュラムの編成、教育の実施体制の整備、入学者選抜及び教育課程の検証、学生への支援等の取り組みを重点的に推進しているが、以下では全学教育と専攻教育の連節の観点からいくつかの取り組みを紹介したい。

### (1) コース決定等における選択システムの改善

取組内容：①平成16年度から進級ガイダンスに改善を加えるとともに、農学部教育・研究説明会(オープンガイダンス)を新たに企画し、実施した。②低年次専攻教育科目の中に新たに「コース概要科目」(必修科目)を加えることを決定し、平成19年度から実施した。

成果：教育研究説明会や進級ガイダンスの改善と新設を通して、学生のコース選択に正確かつ有益な情報が提供できるようになった。また、低年次専攻教育科目に設置したコース概要科目はコース決定等の選択システムを維持し、学生の勉学意欲と高度な学問に対する志向性の向上に貢献した。

### (2) 専攻教育における体系的カリキュラムの編成

取組内容：①平成18年度までに低年次専攻教育科目の見直しと検討を行い、改定案を作成した。この案では平成18年度までの10科目を廃止し、新たに「コース概要科目」(必修科目)を4科目、「共通基礎科目」(選択必修科目)を5科目、「基礎概要科目」(選択科目)を2科目設置した。「基礎概要科目」は物理学及び生物学の基礎知識が不足している本学部の1年次の学生を対象に「物理学基礎概要」及び「生物学基礎概要」を新たに設置した。

成果：低年次教育科目の改訂により、専門の基礎と同時に広い視野を持たせる教育システムの検討と体系的カリキュラムの編成が進んだ。

### (3) 教育の実施体制の整備

取組内容：①平成17年度には、教務関連案件の意志決定を迅速に行うため、学務委員会メンバーに農学部長を加え、さらに、平成18年度には、学部及び学府担当の学生委員並びに2名の研究院長補佐を加え、従来学生委員が行っていた業務（修学相談、生活相談、表彰制度等）についても学務委員会において、検討実施するようにした。また、平成17年度末に設置した学務WG（2名の教務委員と上記2～3名の研究院長補佐で構成）にも、2名の学生委員を加え、教育関連案件の検証企画体制を強化した。②平成18年度に改定し、平成19年度に実施に移した低年次専攻教育科目「共通基礎科目」においては、複数の教員の協力体制が確立された。③平成18年度から実施された全学教育科目「コアセミナー」は、全体協力体制で実施している。平成17年度には実施に向けた方法について検討し、実施後には評価検証を行った。

成果：教務委員会の下に設置された学務WGは、教育関係の案件について検証、企画、実施、評価すべてに関与している。平成18年度からは、月1回開催される学務委員会の前に定例の打ち合わせ会議を行うばかりでなく、臨時の会議も行い、教育関係の案件に速やかに対処することが可能となった。全学教育科目や低年次専攻教育科目においては、複数教員による授業協力体制（ユニット制）を構築することで、クラス間の授業内容に格差が生じないように配慮されている。緒に就いたばかりであるが、授業の質の標準化、教育の効率化に結びついている。

### (4) 教育方法の改善

取組内容：①学生による授業評価は平成12年後期から実施され、「学生の授業評価報告書」として公開されているが、今後の学生による授業評価のあり方が検討された。その結果、教員の自己点検評価の容易さ、データ回収処理の容易さ、学生の授業評価への慣れ等から、全学教育で行われている授業評価方式を参考にしたアンケート用紙が作成され、平成18年度から全教科で実施を開始した。授業評価アンケートは各教員が分析を行い、自己評価報告書の提出が義務づけられている。平成18年度前後期科目に関して提出された自己評価報告書は分析され、その結果が「農学部の教育に関するアンケート調査結果報告書」として、平成19年度には農学部ホームページに公開された。②農学部のFDは、学生指導について（平成17年5月）、GPA制度について（平成18年3月）、安全管理について（平成18年6月）、eラーニング（平成18年6月）、学生指導（アカハラ・セクハラ）（平成19年5月）、安全管理について（平成19年7月）、学習指導について（コーチングについて）（平成19年12月）をテーマに行われてきた。

成果：平成18年度から改訂した学生による授業評価は、授業内容の評価と自己点検評価の容易さに主眼をおいたものである。この効果は今後の評価を待たねばならないが、この改訂により、各教員の授業内容・教材・教授技術等の改善手法に関する自己点検のサイクルが確立された。

学生指導に関するFDは教員が学生に対する時の自覚を喚起するのに有益であった。GPA制度に関しては教育の水準化を考える一助となった。

### (5) 入学者選抜及び教育課程の検証

取組内容：平成16、17年度には、現在実施している3種類の入学者選抜について、入学者選抜研

究委員会が毎年提出している九州大学入学者選抜研究委員会報告と本学高等教育総合開発研究センターがAO選抜での入学学生の指導教員に対して行ったアンケート調査報告を基盤にして、入学試験検討委員会を中心に検証を行った。

成果：平成18年度からは、入学者選抜方式の検証と改善についての検討を行い、以下の点が確認された。現状の3種類の入学者選抜方式は多様な人材の受け入れ方式として機能しているので、現状の入学者選抜方式は維持するが、AO選抜方式の入試方法については平成21年度入学者選抜から変更を行うことを決定した。

#### (6) 学生への支援

取組内容：平成18年度から実施された全学教育科目「コアセミナー」の担当教員は、平成19年4月に低年次における修学指導を行った。

### IV 農学部における全学教育と専攻教育の連節

九州大学は「九州大学教育憲章」で、様々な分野において指導的な役割を果たしうる人間性、社会性、国際性、専門性に秀でた人材を育成することを掲げている。これを受けて、本学部では生物資源、生物機能、生物環境に関する教育・研究、国際協力、社会貢献を通じて、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全及び人類の健康と福祉に貢献する教育・研究が行われている。そのため、生物系、化学系、数物系、社会科学系の諸分野から構成される、あたかも、ミニユニバーシティともいえる総合的な教育・研究体制をとっている。

すなわち、本学部では、コースや専門分野別に入学させず、学部一括して入学させ、入学後1年半を経過した2年次後期の開始時に、各コースへの配属を行っている。農学部に入学者とした新生は、入学後の1年半の間に、「全学教育」と「低年次専攻教育科目」を履修することによって、先端科学としての農学の基礎知識とコンセプトを吸収して、広い意味での農学分野の中でどのような進路を選ぶべきかについて、自己の適正および農学部の研究教育の内容を理解することになる。2年次後期開始時でのコース配属決定後は、各配属コースのカリキュラムに基づき専門的な教育プログラムで研究教育を受け、さらに4年次には研究室に配属され、より専門的な分野における理論・研究方法などを実際の研究を通じて学ぶ卒業研究に取り組み、卒業前には卒業論文として発表する。

以上のように、全学教育での履修は、農学部専門教育の基礎となる教育であり、幅広い教養と基礎学力を養成することになるとともに、所定の全学教育科目の単位を取得していない学生は、コースに配属されず実質留年扱いとなる。また、全学教育の趣旨を生かすために、3年次以降も所定の単位の取得が必要となっており、農学部における全学教育と専攻教育の連節は密接なものになっている。

資料-1 農学部の科目構成

科目区分		科目名	各科目の目標	必修・選択の別	
全学教育科目	教養教育	共通コア	市民的生活のために必要となる基盤の形成	2科目(4単位)必修	
		コアセミナー	大学での学びへの適応の促進, 学習意欲の向上	1科目(2単位)必修	
		文系コア 理系コア	各分野の知識や見解がいかなる問題意識から形成され, その形成にどのような方法やものの見方が働いているかという学問のコアの理解	○文系コア科目 3科目(6単位)選択必修 ○理系コア科目 2科目(4単位)選択必修 ○高年次においても選択科目を配置	
		言語文化	国際社会を積極的に生きるために必要な, また, 外国語運用能力を涵養・向上させ, 異文化理解と国際的感覚, 国際的教養の育成	○第一外国語6科目(6単位), 第二外国語4科目(4単位)選択必修 ○高年次において言語文化自由選択科目を配置	
	基礎	健康・スポーツ科学	健やかな人間性を有する人材の育成	○1科目(2単位)必修 ○低年次, 高年次に選択科目を配置	
		文系基礎	各学部・学科で学科教育を学習する上で必要な科目	○理系基礎科目及び情報処理科目 3科目(5単位)選択必修	
理系基礎					
情報処理					
総合選択履修方式			幅広い教養を養うため, 他学部・学科で開講されているすべての授業科目も履修できる方式	○4単位	
専攻教育科目	各コース 共通科目	低年次専攻科目	コース概要科目	各コースで行われている教育・研究内容の概要の理解	4科目(生物資源生産科学概要, 応用生物学概要, 地球森林科学概要, 動物生産科学概要, 計8単位)必修
		共通基礎科目	共通基礎科目	農学部に必要な基礎科目の理解	5科目(基礎科学A, 基礎科学B, 基礎生物学, 生態系の科学, アグリフードシステムと農学)から3科目(6単位)選択必修
			基礎概要科目	高校での履修・理解が不十分であった科目の復習によって共通基礎科目やコース別科目の理解を深める。	2科目(生物学基礎概要, 物理学基礎概要, 4単位)選択
	コース別科目	その他		全コースに共通する基礎科目(入門数理統計学など)及び演習・実習科目(博物館実習など)でコース専攻科目以外の視野を広げる。外国人留学生向けの日本農業に関する概論科目を含む。	9科目(21単位)選択 *留学生向け概論科目は4科目(8単位)選択
コース別科目		コース別科目	農学部として必要な専門知識を修得するために必要な科目	各コース・分野ごとに必修科目・選択必修科目・選択科目を配置 専攻教育科目の最低修得単位数 86単位	